

浮魚礁漁場モニタリング調査事業

住友 寿明

徳島県海部郡沖に設置した徳島県海部沖浮魚礁A（以後、浮魚礁とする）の生産効果を把握するため、平成13年度に引き続き利用状況をモニタリングした。この調査は県単独浮魚礁漁場モニタリング調査事業に基づき実施した。

材料と方法

浮魚礁は、平成7年3月に牟岐町出羽島灯台から144°、29.5kmの地点、北緯33°24'49"、東経134°36'30"付近（測地系はWGS84）に設置された（図1）。その構造は直径8m、高さ12m（海面上9m）の黄色鋼製塔形浮体をアンカー、ケーブル等で海面に係留したものである（図2）。平成14年4月から平成15年3月までの間、海部郡内の標本漁協に所属する漁船5隻に操業日毎の漁場、魚種毎の銘柄別漁獲量および他船の操業状況（漁協毎の操業隻数あるいは操業船の船名）の記録を依頼した。

漁獲量および漁獲金額は、標本船が浮魚礁で操業した日および時間帯以外には、他船は浮魚礁で操業しなかったという仮定の下に推計した。実際の推計にあたっては、標本船が浮魚礁へ出漁した日の他船の操業状況記録を基に浮魚礁での操業船（以後、「浮魚礁利用船」とする）を特定し、漁協の漁獲資料（一部、漁獲管理情報処理システムで送信されたデータ）から特定された浮魚礁利用船の漁獲を積算し、推計漁獲量および推計漁獲金額とした。ただし、他船の操業状況の欄に漁協毎の操業隻数しか記入されてい

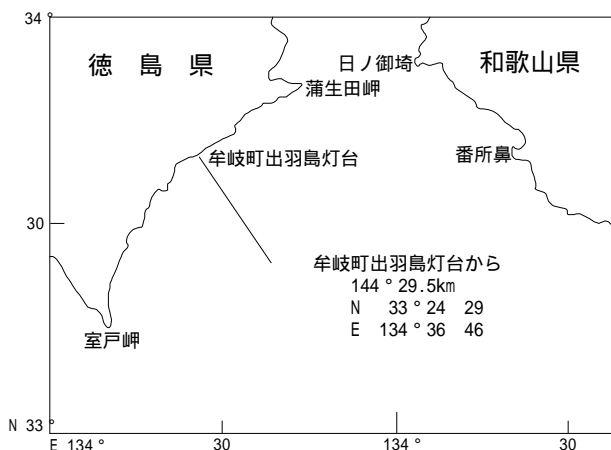


図1 浮魚礁の設置場所

ない場合は、該当する漁協で当日にカツオ、クロマグロ幼魚、キハダ幼魚、メバチ、ピンナガおよびシイラの各魚種（以下、「カツオ等」とする）のうち何れかを漁獲した漁

船の漁獲量および漁獲金額の総和を浮魚礁利用船の隻数で案分し、それを浮魚礁での推計漁獲量および推計漁獲金額とした。

こうして得られた推計漁獲量と推計漁獲金額を標本漁協全体のカツオ等の漁獲と比較するために、標本漁協の漁獲量調査も併せておこなった。

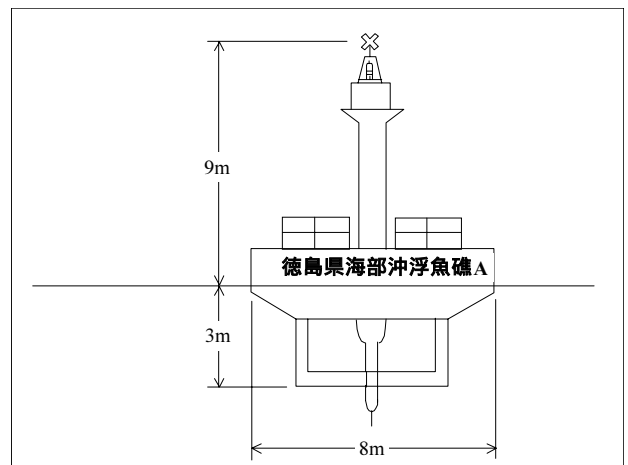


図2 浮魚礁の形状

結果

1. 標本漁協の漁獲量および漁獲金額

カツオの漁獲量は224.1トン、漁獲金額は130,335千円で、昨年度のそれぞれ280.4%、278.9%であった。

クロマグロ幼魚の漁獲量は19.2トン、漁獲金額は19,882千円で、昨年度のそれぞれ56.7%、89.1%であった。

キハダ幼魚の漁獲量は34.7トン、漁獲金額は106,601千円で、昨年度のそれぞれ513.3%、470.6%であった。

メバチの漁獲量は0.4トン、漁獲金額は105千円で、昨年度のそれぞれ295.0%、219.0%であった。

ピンナガの漁獲量は3.4トン、漁獲金額は537千円で、昨年度のそれぞれ213.7%、182.1%であった。

シイラの漁獲量は9.8トン、漁獲金額は735千円で、昨年度のそれぞれ177.5%、177.7%であった。

以上のように、今年度の標本漁協における漁獲量は、クロマグロ幼魚以外の魚種で昨年度を大幅に上回り、好漁であった。

2. 浮魚礁における推計漁獲量および推計漁獲金額

標本船調査から推計された、標本漁協の浮魚礁における

年度別推計漁獲量を表1に、年度別推計漁獲金額を表2に示した。

カツオの推計漁獲量は2,044kg、推計漁獲金額は1,379千円で、平年（1995年から2001年までの平均値、以下同じ）のそれぞれ37.9%、48.2%であった。また、標本漁協全体のカツオの漁獲量および漁獲金額に占める、浮魚礁での推計漁獲量および推計漁獲金額の比は、それぞれ0.9%、1.0%であった。

クロマグロ幼魚の推計漁獲量は115kg、推計漁獲金額は165千円で、平年のそれぞれ12.1%、15.4%であった。また、標本漁協全体のクロマグロ幼魚の漁獲量および漁獲金額に占める、浮魚礁での推計漁獲量および推計漁獲金額の比は、それぞれ0.5%、0.8%であった。

キハダ幼魚の推計漁獲量は2,205kg、推計漁獲金額は934千円で、平年のそれぞれ86.4%、85.0%であった。また、標本漁協全体のキハダ幼魚の漁獲量および漁獲金額に占める、浮魚礁での推計漁獲量および推計漁獲金額の比は、それぞれ6.4%、8.8%であった。

メバチの推計漁獲量は9kg、推計漁獲金額は4千円で、平年のそれぞれ1.5%、1.8%であった。また、標本漁協全体のメバチの漁獲量および漁獲金額に占める、浮魚礁での推計漁獲量および推計漁獲金額の比は、それぞれ2.5%、3.8%であった。

ビンナガの推計漁獲量は99kg、推計漁獲金額は52千円で、今年度初めて浮魚礁で漁獲があったと推計された。ただし、浮魚礁でビンナガを漁獲したと推計された操業船は、標本漁協以外の漁協に所属しているものであり、標本漁協の浮魚礁での漁獲は無かったと推測された。

シイラの推計漁獲量は1,394kg、推計漁獲金額は163千円で、平年のそれぞれ79.7%、98.7%であった。また、標本漁協全体のシイラの漁獲量および漁獲金額に占める、浮魚礁での推計漁獲量および推計漁獲金額の比は、それぞれ14.2%、22.2%であった。

平成14年度における標本漁協でのカツオ等の漁獲は、昨年度に比べ概ね好漁であったものの、浮魚礁での漁獲は低調であった。

表1 浮魚礁における年度別推計漁獲量（kg）

年度	カツオ	クロマグロ 幼魚	キハダ 幼魚	メバチ	ビンナガ	シイラ	その他
1995	8,624	2,766	2,367	864			
1996	369	3,144	4,055			1,331	
1997	4	271	55			164	96
1998	10,656	10	7,618	886		7,298	85
1999	167	1	223			65	77
2000	1,807	129	151			625	9
2001	16,104	340	3,389	55		1,011	197
2002	2,044	115	2,205	9	99	1,394	133
累計	39,775	6,776	20,063	1,814	99	11,888	597

表2 浮魚礁における年度別推計漁獲金額（千円）

年度	カツオ	クロマグロ 幼魚	キハダ 幼魚	メバチ	ビンナガ	シイラ	その他
1995	1,930	2,440	670	130			
1996	249	3,934	1,925			180	
1997	5	382	23			16	106
1998	8,353	18	3,712	498		676	50
1999	40	2	117			5	24
2000	742	164	67			45	3
2001	8,712	584	1,176	21		69	28
2002	1,379	165	934	4	52	163	57
累計	21,410	7,689	8,624	653	52	1,154	268